

能勢高校ニュースレター

第42号 H.22. 10月発行

ぐっと気温が下がり、朝夕は冬かと思うばかりのこの頃です。すっかり秋も深まり一気に冬に突入しそうですが、皆さまお元気ですか？能勢高ニュースレター10月号を(ようやく)お届けできます。

プログラムの概要→

能勢高文化祭 今年も盛況でした！

9月25日(土)、今年は、「支える×築き合う=能勢高祭~大阪の北の町から~」というテーマで盛大に行われました。例年おこなっている能勢町内の小・中学校との連携企画では、児童・生徒一人ひとりが星形の紙に夢や願い事を書き、その約1000個の星を使って、星座をかたどり校内に展示しました。また、校内の全体企画では、廃段ボールを使い、1万5千分の1の縮図で、能勢町の地図を立体的につくりました。

クラス、クラブ、有志による企画においては、体育館ステージ部門、教室ステージ・展示部門、模擬店部門に分かれて発表しました。今年も農産物の販売には行列ができるなど、多くの方に来ていただきました。

全体企画『能勢の立体地図』



小中高連携企画『星に願いを』



ウェルカムゲート



農場生産物の販売



体育館ステージ



ピクセル壁画で「自由の女神」

オーストラリア国際交流研修に行ってきました

(2010年7月26日~8月9日——本校より2名参加)



マジーには落ち着いた古い町並みが残る

オーストラリア国際交流研修は今年度で5回目となり、本校の国際交流の行事の一つとして、定着しています。例年とほぼ同じ日程で2名(2年女子2名)の参加で実施しました。

行き先はニューサウスウェールズ州の内陸地にあり、シドニーから北西に車で4時間、約390kmのところにあるマジーという小さな町(人口1万人程度)です。参加生徒はこの街にあるマジー高校の生徒の家にホームステイをしながらマジー高校に通い、様々な活動や交流をおこないました。マジーは、周囲は主に羊の牧場、ブドウやオリーブ畑などに囲まれた静かな町で、人々も気さくで明るく親日的で、ホームステイとして最適の場所です。

7/26(月)	関西空港発 クアラルンプール(マレーシア)着、クアラルンプール発(シドニー行きに乗る)
7/27(火)	シドニー空港着、世界遺産ブルマウンテン(スリ・シスターズ トロッコ列車とケーブルカー) 見学 バスでマジーへ移動、ホストファミリーと対面、ホームステイ開始
7/28(水)~ 8/6(金)	初日: ウェルカムセレモニー・オリエンテーション、全校集会で挨拶、プレゼント贈呈、 平日: 現地校授業に参加、ESLクラス(英語を母語としない人用の英語授業)参加、 遠足(Dunns Swamp 国立公園)、文化交流会など 週末: 土曜日、日曜日はホストファミリーと過ごす 8/5(木) フェアウェルパーティー
8/7(土)	マジー高校発(バスでシドニーへ移動) 世界遺産ブルマウンテン(ビューポイントからのスリ・シスターズ) 見学、シドニー着、 ダーリングハーバー見学(宿泊)
8/8(日)	シドニー観光(オペラハウス、シスマッコリーズポイント、ロックス) 後、シドニー発 クアラルンプール着、クアラルンプール発
8/9(月)	関西空港着、解散

国際交流研修で得られたもの~現地家族とのきずな、マジー高校でたくさんの友人との出会い~



バディ(ホストファミリーで、学校でのお世話係)と一緒に通学

ホストファミリーは、毎年受け入れの家庭がほとんどで、対応に慣れてしています。まるで家族の一員のように過ごすことができ、暖かいオーストラリアの家庭生活を体験出来ました。週末は各家庭で近隣の観光地を訪れたりハイキングや乗馬をしたりと楽しい思い出となりました。ほとんどの生徒が、最初は英語が全く分からず戸惑っていたが、日が経つにつれコミュニケーションがとれるようになっていきました。ホストファミリーも、生徒たちから日本の文化や習慣を学び、交流を楽しみました。2週間の滞在は、長いようで短く、最終日には、生徒もホストファミリーも涙ながらの別れを惜しまれました。

また、マジーまでの往復で、2つの世界遺産(絶景地“ブルマウンテン”、シドニーの“オペラハウス”)を訪れ、オーストラリア文化を満喫する研修となりました。

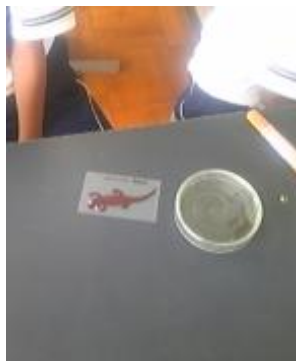
西中学校1年生が本校農場で環境学習を体験

9月6日(月)、人権フィールドワークのため、西中学の1年生16名が本校農場を訪れました。本校農場は、全体で約5ヘクタールあり、ビオトープ池をはじめ、農業や環境について学ぶための絶好のフィールドです。農業科の授業に加え、農業クラブの活動の場となっています。

今回は、農業クラブの研究している生物(アカハライモリとセミ)を中心に、「能勢の身近な自然」をテーマに、農業科教諭が中学生に体験学習と講義を行いました。また、最後にビオトープ池の観察を行いました。

小中学生の皆さんには、環境学習を難しくとらえずに、自分の地域で観察できる生き物から地球規模の環境問題について考えていく機会になって欲しいと思います。イモリの観察カードは実物を見ながら、中学生全員が完成できました。フィールドワークでは農場ビオトープ池の水辺にメダカが群れて泳いでいる姿を確認できました。

今後も本校農場を交流活動の場として活用していきたいと考えています。



イモリカード



講義を受けています



ビオトープ池で観察

第61回 日本学校農業クラブ全国大会北海道大会

情報処理競技会出場 10月6日(水)～7日(木)

第61回日本学校農業クラブ全国大会の情報処理競技会が北海道の岩見沢スポーツセンターで開催され、本校3年宮下昂大君が大阪府の代表選手として出場しました。

付き添った本校農業科の清水教諭によりますと、全国から集まってきた選手の競技レベルが大変高かったため、宮下君はおしくも賞は逃しました。しかし、日々の練習の成果は十分に発揮することができました。

また、最終日には、文部科学省、農林水産省などからの来賓を迎え、大会式典が北海道立総合体育センターメインアリーナで盛大に開催されました。

平成28年度には、これらの大会が大阪で開催されることになっています。大阪の農業系の高校が1つとなり、来年度から大会開催に向けての準備を進めていきます。



競技直前の宮下君の練習風景

連携2中学校の体育祭に参加しました

10月1日(金)、能勢町立西中学校で体育祭が行われました。この日、本校では授業があるため、私(校長)ひとりの参加となりました。すべての競技をみることはできませんでしたが、随所に西中学の先生方の熱い指導の成果が見受けられました。特に女子全員の“Sunshine Girls”でのダンス、男子全員での“西中ボーイズ6～努力の先に・・・～”のパフォーマンスに圧倒されました。見ている人全員が感動するほどの素晴らしい内容でした。



真剣に玉入れ競技中!

10月2日(土)、能勢町立東中学校で体育祭が行われ、本校からは、生徒会役員と有志あわせて9名が参加しました。本校生たちは、中学生、小学生、PTA、来賓の方々にまじり、障害物競走と玉入れに出場しました。まさに小中高と地域が一体となった競技となりました。特に女子全員の創作ダンスと男子全員の南中ソーラン～東中バージョン～はとても見ごたえがあり、この日のために生徒たちがしっかりと練習を積んできたことが十分感じられました。今後も様々な活動を通じ、してまいりたいと思います。

第18回大阪府産業教育フェアに参加しました

10月23日(土)・24日(日)、弁天町ORC(オーク)200において第18回大阪府産業教育フェアが開催(来場者数10,700人)され、生徒会役員、農業クラブ員など約10名が参加しました。

本校は、毎年このイベントに参加しており、農業をモチーフとしたダイナミックな展示や生徒の活躍ぶりに対し来場者から多くの賞賛の声をいただいております。

今回は、「里山の秋」をテーマに、特産のクリ、ブドウ、タマゴなどを材料とした作品の展示を行いました。農業クラブのコーナーでは、来場者にアカハライモリの生態について説明し、実際にイモリに触れてもらう取組みを行いました。さらに恒例となっている生産物の販売コーナーでは、



旗手として入場(開会式)

「ハチミツ」「クリ」「黒米」の販売を行い、販売開始前から多くの方が並び、すぐに売り切れとなりました。

また、昨年度に続き、閉会式の司会進行を担当し、そのさわやかな態度に対し大きな拍手をいただきました。

この2日間を通じ、本校の教育成果を多くの方々に伝えることができました。参加した生徒たちには大きな自信と今後の励みにつながる貴重な体験となりました。



作品の展示とイモリの説明



賑わいあふれる生産物の販売



司会進行で活躍(閉会式)